

日本ヒューマン・ケア心理学会 第22回学術集会

学術集会テーマ
「ヒューマン・ケアから考えるしあわせ」

大会プログラム・抄録集

会期 2021年7月3日（土）～7月17日（土）
方法 オンライン（オンデマンド）
大会長 山崎 登志子 広島国際大学看護学部 学部長

目次

ご挨拶	1
参加者へのご案内.....	2
演題発表者へのご案内.....	3
大会プログラムおよび参加方法.....	4
基調講演	5
シンポジウム.....	6
学術集会企画ラウンドテーブル.....	12
自主企画シンポジウム	14
学会論文賞	16
一般演題	18
一般演題抄録集	20
研修会	32
日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会一覧.....	34
大会組織	35
協賛企業一覧	36

ご挨拶

日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第22回大会は、2020年7月に広島国際大学呉キャンパスにて、中国地方で初めての本学会学術集会の開催になる予定でした。しかしながら、COVID-19の感染拡大の影響により延期を余儀なくされ、1年以上経った今でも感染症収束のめどが立たない状況下にあります。そのような中での開催を模索した結果、2021年は皆様の健康を第一に考え、7月3日(土)～7月17日(土)の期間、Webでの開催を決定いたしました。会場での開催を楽しみにして下さっていた方々や2020年度に学会での発表登録をして下さっていた方々には、大変申し訳なく残念に思っております。心からお詫び申し上げますとともに、このような諸事情についてご理解していただき、新たな研究成果をこの場で発表していただくと幸いです。

今回の学術集会のテーマは「ヒューマン・ケアから考えるしあわせ」とさせて頂きました。このテーマをあげた理由は2つあります。1つは、事務局である広島国際大学は「しあわせになる学び舎」を将来像に掲げている医療・福祉を中心とした総合大学ですが、漠然としている「しあわせ」という概念をヒューマン・ケアの立場から皆様方と一緒に考えてみたいと思ったからです。また、2011年度の東日本大震災をはじめ2020年度に拡散したCOVID-19の感染までの間、様々な大規模災害が世界各国で発生しています。広島でも2018年度の西日本豪雨災害に呉市周辺が巻き込まれています。コロナ禍も含めた災害を乗り越えて前向きに「しあわせ」に生きていくにはどうすべきかを、参加者全員で考えたいと思ったのが2つ目の理由です。

このテーマに基づき、基調講演者には幸福学をご専門の1つとしていらっしゃる慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の前野隆司教授を、シンポジスト、また研修会のゲストスピーカーには、2019年4月のNHK番組「クローズアップ現代」に出演され、看護師と僧侶という2つの立場を活かしヒューマン・ケアを実践していらっしゃる玉置妙憂先生をお招きしています。一般口演、示説、ラウンドテーブル等も企画しております。

こじんまりとした学術集会ではありますが運営委員一同、参加して良かったと思える学術集会の開催に向け、準備を進めております。是非ご自分の日ごろの研究成果を発表する1つの機会としていただくとともに、クライアントのみならず、自分自身のしあわせと一緒に考える機会としていただきたいと思います。

小規模ながら充実した学術集会になりますよう、会員の皆様のご参加とご協力を心より重ねてお願い申し上げます。

2021年7月吉日

第22回日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会大会長 山崎登志子(広島国際大学)
広島国際大学看護学部 学部長

参加者へのご案内

1. 会期・開催方法

会期：2021年7月3日（土）～ 7月17日（土）

方法：オンデマンド ＊会期中、いつでも閲覧可能です。

＊会期中、発行されたID、PWの入力により、いつでも閲覧可能です。

2. 参加方法

- ・学会開催期間中に日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会 HP「第22回学術集会について」メニュー（↓）からご参加下さい。

[第22回学術集会・学術集会 | 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会 \(j-hc.jp\)](http://j-hc.jp)

- ・なお、参加登録および参加費のお振込みを行った方に、ID、PWを別途お送りいたします。
- ・抄録集は参加登録および参加費のお振込みを行った方のみに、ID、PWをお伝えしますので、HPからダウンロードしてください。冊子の配布はいたしません。

3. 参加諸費用と参加資格

諸費用一覧

参加申込区分	支払期限	大会参加費	参加可能内容	研修参加費
会員・発表予定である 非会員の共同研究者	2021年6月26日(土)	5,000円	全プログラム(研修会は別料金)	3,000 円
非会員	2021年6月26日(土)	3,000円	一般演題発表のみ非公開	3,000 円
学生 (学部生のみ)	2021年6月26日(土)	2,000円	一般演題発表のみ非公開	

＊研修会は別途研修会参加申し込みを行った者のみ参加可

4. 著作権・守秘義務保護

- ・動画コンテンツの著作権は、発表者に帰属します。著作権および守秘義務保護の観点から、すべての画像、動画、スライド等のコンテンツの無断撮影、録音、写真撮影、およびダウンロード、他サイトへの転載等は固く禁止します。
- ・参加者以外へのPWの流用、および共有(複数人での視聴)は絶対に行わないようお願いいたします。
- ・上記観点から、今年度のオンライン学会では、一般演題の聴講は学会員および非会員の共同研究者のみの公開といたします。ご理解ください。

5. 一般演題発表

- ・学会員、および発表予定の非会員共同研究者にのみ、専用のPWを発行します。
- ・1演題15分程度の発表になっており、発表の多くは音声付きのパワーポイントになっています。
- ・質問や意見等がある場合は発表内容中にある発表者のメールに直接連絡をしてください。その際、必ずご自分の所属、氏名、メール連絡先を伝えて下さい。発表者から直接回答していただきます。
- ・質問は学術集会開催期間中のみに限ります。

演題発表者へのご案内

1. 正式発表のための要件

学会発表は、抄録集の掲載とともに、パワーポイントご提出による発表をもって実施したことになります。抄録集の掲載のみでは「学会発表」となりませんので、ご注意ください。

- ＊自主企画シンポジウム企画代表者は、学術集会終了後2週間をめぐに、1000字程度で発表内容のご報告をお願いいたします。

2. 掲示期間

学術集会開催期日を過ぎましたら、自動的に閲覧不可となります。

3. 留意事項

- 1) 演題発表者は他の著作物からの引用にあたっては、「発表内容と引用内容の主従関係が明確で引用部分が明瞭に区別されているか」「引用の必要性があるか」「出典元が明記されているか」「改変されていないか」について、もう一度ご確認ください。とくに他者が著作権を有する写真・映像・音楽を引用しなくてはならない場合、著作権法違反にならないようご注意ください。
- 2) 学術集会開催期間中は、動画に掲載した連絡先（メールアドレス）に聴講者から質問等が入る可能性がございます。常に受信できるようにし、速やかな返答を心がけて下さい。回答は学術集会開催期間内で行ってください。開催期間外の問い合わせには返答する必要はございません。

大会プログラムおよび参加方法

1. 大会プログラム

2021年7月3日（土）～7月17日（土）	
学術集会HP https://www.j-hc.jp/academic_meeting/gakujutsu-meeting/	
PW①	抄録集（6月28日～参加者にHP上で公開）
PW②	大会長挨拶
	基調講演
	シンポジウム
	学術委員会企画ラウンドテーブル
	自主企画シンポジウム
PW③	学会論文賞発表
	一般演題発表
PW④	研修会

2. 参加方法

- ・上記 HP 上にて、①から④までの指定された ID、PW を入力して、ご参加下さい。
- ・抄録集閲覧可能な PW①はすべての参加者にお知らせします。
- ・他は、参加申し込み種別によって、参加できる内容に制限がございます。
- ・参加区分および ID・PW は以下をご参照ください。
- ・参加費入金確認後、6/28(月)から順次、ご登録のメールアドレスに、参加可能な ID、PW を通知いたします。なお、ID、PW を使用してのご利用は大会開催期間のみ有効です。

<参加区分および ID・PW>

- 本学会会員および非会員で一般演題への共同研究者：学術集会 ID、PW①～③を発行
- 本学会非会員および学生（学部生）：学術集会 ID、PW①～②を発行
*一般演題発表は非公開となります。
- 研修会参加者：研修会 ID、PW④を発行
*研修会のみに参加登録された方は、学術集会には参加できません。

基調講演

しあわせのメカニズム

前野隆司 慶應義塾大学学院システムデザイン・マネジメント研究科教授

幸福学の基礎について述べる。講演者の定義によると、幸福学とは、幸せに関する学問の総称であり、心理学を中心にしながら、幸せなモノづくり、コトづくり、組織づくり、街づくりなどの応用分野も含む。一般には、Well-Being and Happiness Study と呼ばれる。Well-Being とは、良い状態のことであり、辞書によると、健康、幸せ、福利、福祉と出ている。つまり、体と心の良い状態のことを Well-Being という。Happiness は幸せの直訳だと考えられがちだが、より感情的な側面に特化した単語である。講演では、健康な人は幸せである、幸せな人は長寿である、幸せな人は創造性や生産性が高い、などの研究結果を紹介する。また、幸せには長続きしない幸せ（地位財を得たことによる幸せ）と長続きする幸せ（非地位財による幸せ）があることを述べる。次に、非地位財による幸せのうち、心的要因についての因子分析を行って求めた「幸せの4つの因子」について述べる。4つの因子とは、やってみよう因子（自己実現と成長の因子）、ありがとう因子（つながりと感謝の因子）、なんとかなる因子（前向きと楽観の因子）、ありのままに因子（独立と自分らしさの因子）である。クラスター分析も行なった結果、これら4つがいずれも高いグループがもっとも幸せなクラスターであった。つまり、4つの因子全てが高い状態が幸せな状態であると考えられる。すなわち、夢や目標を持ち、多様な仲間と助け合い、前向きかつ自分らしく生きる人である。仕事に当てはめてみると、やらされ感ではなくやりがいを感じ、生き生きワクワクしながら周りの社員と信頼関係を構築し助け合いながら仕事をしていて、前向きに自分らしくリスクをとってチャレンジしている社員は幸せである。私たちは、それぞれの仕事や活動を通して、全ての人が幸せに生きることのできる世界を構築すべきであるといえよう。

シンポジウム

しあわせを生み出す力

「しあわせを生み出す力」をテーマに、様々な視点からしあわせな生活に向けた実践力を養う方法について考えていきたいと思います。今回は、呉市で生活支援相談員として西日本豪雨災害被災者支援を実践している大西舞先生には「被災者支援体験から考えるしあわせ」について、また看護師でもあり僧侶でもある玉置妙憂先生から「医療と宗教の接点から考えるしあわせ」について、心理学研究者で睡眠研究の第一人者である田中秀樹先生から「睡眠から考えるしあわせ」について、お話をさせていただきます。その後、基調講演者の前野隆司先生にもご参加いただき、参加者とともに意見交換をしていきたいと思います。

シンポジスト

- 大西 舞 先生（呉市地域支え合いセンター 生活支援相談員・保健師）
玉置妙憂 先生（一般社団法人大慈学苑 代表理事・看護師・僧侶）
田中秀樹先生 （広島国際大学 健康科学部学部長・教授）
前野隆司先生（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科・教授）

一人ひとりの心にそっと寄り添う被災者支援活動の経験と気づきからの学び

大西 舞 呉市地域支え合いセンター 生活支援相談員・保健師

I. はじめに

呉市では、平成30年7月5日から8日にかけて降り続いた記録的な豪雨により、各市内においても土砂災害や河川の氾濫などが発生し、災害関連死を含め29名（令和2年3月31日時点）もの尊い命が失われました。家屋被害は3000件を超え、今だ多くの市民の皆様が避難生活を送られています。被災されたお一人おひとりが、直面した厳しい現実、これまでの穏やかでかけがえのない日常や生かされている生命の尊さと向き合う日々を過ごされています。

復興に向けた主な取り組みのひとつとして、被災者の悩みや課題解決ならびに、被災された一人ひとりに寄り添った住まいと暮らしの再建に向け、平成30年10月より呉市地域支え合いセンター（以下支え合いセンターという）が開設されました。支え合いセンターでは、被災者に対する戸別訪問等を通じた見守りや相談支援をはじめ、状況把握、関係支援機関へのつなぎ、コミュニティ活動の支援など、被災者へ寄り添ったきめ細かい対応に努めています。

とくに被災者の生活の再建とこころの復興には長い時間がかかり、この長い時間のなかにある被災者一人ひとりに関心を向け、寄り添い続けています。

ある被災者の言葉がいまも心に残っています。「何もしなくていい、ただ黙って私の想いを受け止めてくれるだけで十分なのです。」と。

一人ひとりの心にそっと寄り添う被災者支援活動の経験と気づきからの学びを通して、しあわせを生み出す力とはどのようなことであろうか、考えていきたいと思います。

II. 災害を経験した被災者の想いに寄り添う

被災当事者の「生活経験の語り」

（動画紹介）

「いつも胸にあなたが・・・」—被災体験、かけがえのない日常を通して—

【災害発生による翻弄と悲嘆】

【健康回復への願望／被災後の窮乏と苦悩】

【再建の重圧と意欲／公的扶助の恩恵と失望／相互扶助によるつながりへの信頼／地域で生きる希望】

III. 一人ひとりの心にそっと寄り添う被災者支援活動の経験と気づきからの学び

災害がここらにもたらすものとして、大きな災害の後、ショックを受けたところは時間とともに変化し、時間をかけ回復に向かっていくことを理解しておくことが大切であると思います。

また支援者は、つねに「誰のために、何のための支援なのか」を考え、被災者一人ひとりのいのちと生活に寄り添っていく必要があります。

災害直後の「正常な反応」はいったん落ちついたように見えても、こころの傷が解消したと言いつけることはできず、ある種の生きづらさが持続していることがあります。

こころのケアの長期的な目標は、こうした生きづらさをいかに和らげるかということだと思っています。「寄り添う」とは、まずは人と人がつながれていき、生きる希望を共に見出していく道筋ではないかと考えています。またそれは、「人」「地域」「暮らし」を繋ぐことを可能にしていきます。

「語るあなた、聞く私」の関係を育てていくことは、次第に言葉のいらない関係性を生み出すことにつながっていくのではないかと考えます。それは、何にも代えがたい信頼そのものであるという理解ができるのではないのでしょうか。

災害看護の実践者でいのちある限り被災地支援活動を続けた黒田氏は、被災者の声に真剣に向き合うことが重要で、あるがままの相手を見つめるためには、あるがままの自分が存在していなければならないと言っています。また「生きている」あるいは「生き残った」という被災者の思いを、自らの生命のただ中に自己があり、それが支援者（他者）からの対話による呼びかけによって、他者との〈共存性〉の関係で自己の生活（日常性）が存在している、と発想を転換させ、気づかせることによって、被災者が生活意欲の維持や発展に向かって支援を行うことの意義を唱えている。

さらに阪神・淡路大震災で被災者の声に耳を傾け、こころの痛みを共に感じ、寄り添い続けた精神科医である安氏によると、こころのケアを最大限に誇張すれば、それは住民が尊重される社会を作ることではないかと述べられています。そのため、人は人との関わりをもつなかで生きているということを理解し謙虚な姿勢でお互いが関わっていき、被災者支援に従事する者だけでなくできるだけ多くの方々が、平時においてこころのケアについて自覚することが求められていると感じています。一人ひとりとは地域の中で暮らす生活者であり、互いに寄り添い合うことで地域が人と暮らしを持続的に守る社会となり、人々が希望を持って暮らしていけることになるのではないかと思います。

IV. おわりに

被災により苦しみを抱えた人に対して、「そばにいるよ」「1人にしないよ」という想いとともに寄り添い、全てが分かるわけではないけれどありのままを受け入れて共に生きてくれる人の存在は、苦しみながらも自らが立ち上がり、主体性を持って生きていくことを支えていくことにつながっていくと考えています。また、その関係性そのものが、しあわせを生み出す力になるのではないかと期待しています。

これからも私は寄り添い支援のもたらす意味やその役割・可能性への理解を深めながら、寄り添い支援活動の輪を広げていけられるよう、一支援者として一生活者として向き合い続けていきたいと考えています。

（文献）

- （1）柳田邦男・酒井明子『災害看護の本質 語り継ぐ黒田裕子の実践と思想』（株式会社日本看護協会出版会，2018年）
- （2）安 克昌『心の傷を癒すということ 一大災害と心のケア』（株式会社 作品社，2020年）
- （3）金田 諦應『傾聴のコツ』（株式会社 三笠書房，2020年）
- （4）デビッド・ロモ『ハンドブック 災害と心のケア』（株式会社 アスク・ヒューマン・ケア，2011年）

セルフスピリチュアルケア

玉置妙憂 非営利一般社団法人 代表理事

人はしばしば「しあわせになりたい」「どうしたらしあわせになれるか」という問いを口にします。出版物やメディアも数多くこの問いを扱っている様子を見るにつけ、いかに人々がここに関心を寄せているかを計り知ることができます。

ところが、「しあわせになりたい」と言う人に「しあわせ」とはなにかと逆に問い返すと、ステレオタイプな答えが返ってくることが多いのです。本来であれば「しあわせ」の在り方は極めて個人的なものであるはずなのですが、いつのまにか他者との比較の中で形成されるものになってしまっているような気がしてなりません。

しあわせを生み出す力とは、まずは、「自分にとってのしあわせとはなにか」を、自分軸で考えることができる力だと思っています。

自分軸というと、自己中心的な傲慢さを感じる場合もあるかもしれませんが、そうではありません。ここでひとつ、仏陀が説いた「自利」と「利他」の教えをご紹介します。

仏陀は弟子たちに「利他行に励め」と教えました。「利他」とは、他人の利益のことです。つまり、利他行とは「人さまのしあわせのために行動する」ということです。看護・介護は利他行の最たるものです。子育ても、家事も利他行。働いて給料を稼ぎ家族を養うのも、利他行です。こうしてみると私たちは仏陀の教えの通り、日々利他行に励んでいるのです。一方、「自利」というのは、自分の利益のことです。美味しいものを食べる、ゆっくり休養を取る、知識をつける、技術をつける、すべて自利です。

仏陀は「利他行に励め」と教えましたが、同時に、「自利を以って」と諭しました。「自利も以って利他を成せ」と教えたのです。さらに、仏陀は「二利を回せ」と説きました。「自利」と「利他」がうまく回れば、「利」のエネルギーは永遠に枯渇することがないということです。「自利を以って利他を成せ」というのは、その循環をはじめようとするとき、最初にすることは「自利」を満たすことなのだと説いているのです。

私たちは往々にして、自分自身を本当の意味で満たすことに無頓着で、後回しにしがちです。ましてや、他人のケアをするケアギバーの立場にある者であれば、まずは「自利」をしっかり満たさないでは良いケアができるわけがありません。「自利」を満たすということが、他者との比較ではなく自分軸で「しあわせ」を判断できるということであり、それが、セルフスピリチュアルケアにつながります。セルフスピリチュアルケアが十分にできている人は自分自身が枯渇することがありません。そうして得た安定が、周りの人にしあわせをもたらし、しあわせを生み出すのです。

睡眠から考えるしあわせ ～睡眠改善からの脳・心身のヘルスプロモーションと生活リズム健康法

田中秀樹 広島国際大学 健康科学部学部長・教授

脳・心身の健康と密接に関係する睡眠問題の予防や対処は、本人、かかわる家族や専門職のQOLを考える上でも重要課題といえます。また、睡眠は、感情コントロールや記憶、人の心を押し量る能力等とも関係します。本シンポジウムでは、地域や施設等での実践例を交えながら紹介しながら、しあわせと健康について、睡眠から考えてみます。

筆者らは講演、相談、快眠教室など、睡眠改善を切り口とした脳・心身のヘルスプロモーション活動を実施しています。講演では、睡眠〇×クイズを交えながら、睡眠の重要性や睡眠改善法を中心に伝え、改善法の知識と連動した習慣を身につけてもらうために生活リズム健康法(図1)を指導しています。快眠教室については、日中の適正な覚醒確保、リズム調整に注力し、短期体験型の習慣づけ講座で実施しますが、回数等は、現場ニーズにそった形で運営されています。30分の昼寝とグループワーク、夕方の軽運動で構成した教室(1か月)では、睡眠、体調や意欲、食事の味等が改善し、教室終了半年後もその効果が維持していました。近年は、笑いや前向き思考を活用した快眠教室に生活リズム健康法を併用したものを多く実施しており、QOL、抑うつ、痛み等の改善も認められています。また、睡眠マネジメントを導入した施設では、夜間コールの数が激減する例もありました。さらに、興味深いことに、睡眠に有効な生活リズム健康法メニュー(睡眠促進行動)は、幸福感や健康感とも関連していること、重要なメニューは男性と女性で異なることもわかっています。現場の要望により、睡眠マネジメントの形は様々ですが、知識獲得、認知や習慣の修正、維

図1 生活リズム健康法(熟年版)
△(がんばれそうなもの)の中から 実行可能な目標行動を3つ選択

生活リズム健康法		一日常生活に取り入れよう 熟年用
①あなたの習慣をチェック しましょう！		
*()の中に、既に出てきていることには○、頑張れば出来そうなことには△、できそうにないものには×をつけてください。		
1.() 毎朝ほぼ決まった時間に起きる	16.() めるめのお風呂にゆっくりつかる	
2.() 朝食は、良く噛みながら毎朝食べる	17.() 寝床でテレビを見たり、仕事をしない	
3.() 朝食に【乳製品、バナナ、納豆】を摂る	18.() 寝室は静かで適温にする	
4.() 朝食に【海藻類、魚類、肉類】を食べる	19.() 寝る前に、リラックス体操(腹式呼吸)を行う	
5.() 午前中に太陽の光をしっかりと浴びる	20.() 眠るために、お酒を飲まない	
6.() 日中はできるだけ人と会う	21.() 寝床で悩み事をしない	
7.() 日中はたくさん歩いて活動的に過ごす	22.() 眠くなってから寝床に入る	
8.() 趣味などを楽しむ	23.() 8時間睡眠にこだわらず、自分にあった睡眠時間を規則的に守る	
9.() 日中は、太陽の光にあたる	24.() 睡眠時間帯が不規則にならないようにする	
10.() 昼食後から午後3時の間で、30分以内の昼寝	25.() たくさん文字を書き、新聞や雑誌など、読み物を音読する	
11.() 夕方に軽い運動や、体操や散歩をする	26.() 1日1回は腹の底から笑うようにする	
12.() 夕方以降は居眠りをしない	27.() いつもと違う道を通ったり、料理を作るなど、新しい事に挑戦する	
13.() 夕食以降、コーヒー、お茶等を飲まない		
14.() 寝床につく1時間前はタバコを吸わない		
15.() 床に入る1時間前には部屋の明かりを少し落とす		

文献：田中秀樹・宮崎総一郎：ストレスチェック時代の睡眠・生活リズム改善実践マニュアル—睡眠は健康寿命延伸へのパスポート

持, 睡眠状態や日中状態の改善へと良い循環(知識⇒習慣⇒睡眠、日中の質改善)を形成するきっかけ, 糸口といった点では共通しています。また, その際, 快眠のポイントとして, ①深部体温の下降, ②頭寒足熱(脳が興奮していなくて手足の血行が良い)等が重要であることも合わせて伝えることで, 臨機応変な工夫が可能になります。

* 田中先生のご厚意により、睡眠教育用パンフレット(○×クイズ解説、生活リズム健康法) PDF 版が HP 上でダウンロードできます。ご活用ください。

学術委員会企画ラウンドテーブル

ヒューマン・ケアとスピリチュアルケアⅡ

座長	第8期学術委員長	中込さと子
企画	第7期学術委員長	清水 裕子
話題提供者	香川大学社会集団心理学	野口 修司
	香川大学慢性期成人看護学	上原 星奈
	東北大学大学院	宇野あかり
指定討論者	東北大学教育学研究科	安保 英勇

第21回大会では、「ヒューマン・ケアとスピリチュアルケア」と題して、臨床実践におけるスピリチュアルケア、遺伝性疾患とスピリチュアルケア、看護教育とスピリチュアルケアを発表していただき、その関係性を問う意見交換を行いました。

今大会では、その「ヒューマン・ケアとスピリチュアルケアⅡ」として、終末期にであう看護師の活動、災害現場での遺族ケアを行う心理士の活動を発表いただき、スピリチュアルニーズに対する専門家のケアマインドを検討する意見交換を行いたいと思います。特に近年多発する災害支援に結びつくことを期待します。

【日本の看護学生のスピリチュアルニーズの測定】

香川大学慢性期成人看護学助教 上原 星奈



スピリチュアルニーズは、人間特有のニーズであり、普段は表在化しないが否定的経験や肯定的経験により現れる。患者のスピリチュアルな苦痛をケアする看護師は、メンタルヘルスの観点から、自身のスピリチュアルニーズを認識し考える機会が必要である。日本人のスピリチュアルニーズを測定するために、ドイツのスピリチュアル研究者である Büssing, A. らが開発した Spiritual Needs Questionnaire (以下, SpNQ) を日本語に翻訳し、SpNQ 日本語試案として看護学生 260 名を対象に調査を行った。看護学生は、第2因子「実存的ニーズ」の平均値が 1.23 であった。SpNQ 英語版の 31 歳未満の対象者の同因子の平均値は 0.64 であり、有意な差がみられた。看護学生の実存的ニーズの平均値が高いことから、スピリチュアルニーズは、年齢や性別、文化的影響を受けると考えられた。

本ラウンドテーブルでは、研究結果を共有しながら、患者や家族、看護師へのスピリチュアルケアについて検討する。

【看取りの現場における死のとりえ方と時間的展望】

東北大学大学院教育学研究科・日本学術振興会 宇野あかり



緩和ケアのスタッフは日々死と向き合うことで、自身の過去・現在・未来を意識し、キャリアを通して時間的展望を発達させていると考えられる。そこ

で、スタッフがキャリアの中で死のとらえ方をどう変化させ、それが時間的展望の発達とどう関連しているのかを明らかにすることを目的とし、ベテランから若手までの17名のスタッフにインタビューを行い、TEMを用いて分析を行った。その結果、スタッフは仕事での経験を通して自身の死のとらえ方を変化させ、死に肯定的な意味を見出すことで職業適応を高めていることが示唆された。また、そのような環境はスタッフ自身の人生全体の視野を広げ、豊かな時間的展望の形成に繋がっていることがわかった。

ラウンドテーブルでは研究結果を考察しながら、緩和ケアに時間的展望の視点を取り入れることの意義や、心理支援への新たな糸口を考えていく。また、スピリチュアルケアに対する意識や態度は、死のとらえ方や時間的展望との関連性が強いことが予想され、インタビュー調査の中で得られた語りをもとにその点についても触れていく。

【東日本大震災における被災自治体職員に対する長期的なメンタルヘルス支援】

香川大学社会・集団心理学講座准教授 野口 修司



これまで、東日本大震災が発生した2011年から各地の避難所等での心理支援活動に携わり、2012年から2018年の約6年間は津波による最も大きな被害を受けた自治体である石巻市役所において常勤の臨床心理士（石巻市総務部人事課所属）として職員のメンタルヘルス支援業務に従事した。現在も不定期ながら石巻市役所を訪問し、継続的な支援に携わっている。災害により家族を亡くした被災自治体職員の特徴として、強い自責感が伴うということが挙げられる。これは、災害時に自治体職員として災害対応に従事しなければならないという責務があった一方で、もし自分が家族のそばにいられたならば、死別とは異なる結果を迎えられたのではないかという思考の板挟みに起因する。そして、遺族はこの苦しい思考について考えないようにする、あるいは逃れようとすることによって余計にとらわれてしまうという悪循環に陥ってしまうのである。

本ラウンドテーブルでは、東日本大震災により家族を亡くした自治体職員に対するブリーフセラピー（短期療法）に基づくカウンセリングの事例を紹介するとともに、スピリチュアルケアという視点も含めて議論していく場としたい。

【指定討論者】

安保 英勇

【まとめ】

清水 裕子

自主企画シンポジウム

わが国の対人援助職のバーンアウト予防を考える —教職と看護職、心理職の比較—

企画者 / 今井田貴裕（甲南大学・国際心理支援協会）

話題提供者 / 磯和壮太郎（名古屋芸術大学）

話題提供者 / 今井田真実（中京学院大学）

話題提供者 / 福井義一（甲南大学）

指定討論 / 小泉隆平（近畿大学）

指定討論 / 久保真人（同志社大学）

企画趣旨

わが国におけるヒューマン・サービスを取り巻く社会的状況は厳しい上に、対人援助者は被援助者との感情労働が求められることから、バーンアウトのリスクにさらされていると思われる。この傾向は、昨今のコロナ禍によりさらに拍車がかかっており、バーンアウトの予防対策は急務であると言える。しかし、わが国では対人援助の職種によって、バーンアウトの研究やその予防の取り組みに温度差があり、対人援助職のバーンアウト予防に対する有効な取り組みは未整備であると言わざるを得ない。

本シンポジウムでは、対人援助職のバーンアウト予防に対する有効な取り組みを考える契機となることを願って、教職や看護職、心理職のバーンアウトについて、研究の課題と将来の展望を共有し、多様な対人援助の職域で実践や研究を行っているみなさまと意見を交換したい。

話題提供者 磯和壮太郎（名古屋芸術大学） 「わが国の教職のバーンアウトに関わる要因」

学校教育現場の問題として、教職の多忙化が指摘されて久しい。教職は対人援助職の側面を有し、バーンアウトに陥りやすい職業でもある。また、教職の多忙化の悪影響は、単に教職に携わる側のメンタルヘルスの問題に留まらず、児童・生徒の適応やパフォーマンスにも及ぶ可能性がある。わが国における教職のバーンアウト研究の焦点が、職務内容から職場の対人関係へと移行してきた（草海，2020）のに伴い、バーンアウト予防のために、職場における同僚性の促進や管理職のラインケアの充実の必要性が指摘されている（長谷・窪田，2017；宮下，2018；谷口，2018）。

教職のバーンアウト予防について、教職の多忙や職務内容には、職務量自体が多いという量的な側面（多忙感）と、職務内容に伴う負担が高いという質的な側面（負担感）があると考えられ、その両側面からのアプローチが必要であろう。また、同僚性の促進とラインケアの充実においては、同僚間や管理職とのコミュニケーションの内実などの検討が必要であると考えられる。

本シンポジウムでは、教職のバーンアウト研究の動向を示した上で、話題提供者らの調査結果を踏まえ、わが国の今後の課題を述べる。

話題提供者 今井田真実（中京学院大学）

「わが国の看護職のバーンアウトと解離の関係」

看護職のバーンアウトは、わが国でも盛んに研究されており、夜勤の多さや職場の対人関係、職務に対する不安全感などによって増悪する（例、本村・八代，2010）ことなどが分かっている。加えて、近年では解離もバーンアウトを促進する可能性が指摘されている（藤岡，2005）。解離とは、苦痛をもたらす経験や知覚を自己から切り離す心的作用（Putnam, 1997）であり、高強度のストレスへの慢性的曝露によって生じると言われている（Mulder et al., 1998）。

話題提供者らは、看護職において、解離傾向が患者の死や苦しみへの曝露（今井田真実他，2019a）や、バーンアウト症状の自覚の欠如（今井田真実他，2019b）と関連することを見出した。このように、看護職の解離はバーンアウト研究において重要な視点であると思われるが、両者の関連についての研究はほとんどない。

本シンポジウムでは、看護職におけるバーンアウトの研究動向を紹介し、わが国の看護職の解離研究に関する今後の展望と課題を述べる。

話題提供者 福井義一（甲南大学）

「わが国における心理職のバーンアウト研究の現状と課題」

わが国において、心理職の国家資格である「公認心理師」が誕生して間もないが、それ以前の「臨床心理士」全盛の時代から、心理職は職業として一定の人気を博している。それにもかかわらず、有資格者の半数が非正規雇用であり、年収400万円未満であるという現状がある（日本臨床心理士会，2016）。このように、社会的立場の不安定さに伴う職務上のストレスに加えて、心理職は他の援助職に匹敵するほどの感情労働を強いられる職業であり、共感疲労などによるバーンアウトのリスクも高いと思われる。海外では心理職のバーンアウトについて活発に研究されている（例、Lee, et al., 2020; McCormack, et al., 2018; Rodriguez, & Carlotto, 2017; Simpson, et al., 2019）のに対して、わが国における研究（例、近藤・宮下，2019）は非常に乏しく、立ち後れの感は否めない。わが国における心理職のバーンアウトの実態調査と、海外と比較した独自性についての検討、それに基づく対策の立案が喫緊の課題である。

本シンポジウムでは、心理職のバーンアウトに関する国内外の先行研究を紹介し、他職種との比較、海外のモデルのわが国への適用可能性の検討、今後の研究や実践への提言等を行う。

学会論文賞

第4回 ヒューマン・ケア 心理学会 論文賞

一時保護所の生活に児童が安心・安全を感じるプロセス

-被虐待児が求める受容的な関わり方-

○阪無勇士(昭和学院短期大学人間生活学科こども発達専攻)

石村郁夫(東京成徳大学応用心理学部)

キーワード: 児童相談所, 一時保護所, 受容的な関わり, 被虐待児, 問題行動

【目的】

一時保護所の児童の多くがトラウマや愛着形成に関する問題を抱え、問題行動を示す傾向にある(厚生労働省 2018)。一時保護ガイドラインでは、児童の自己表現へと受容的に関わり、ケアに結ぶことを職員に期待しているが(厚生労働省 2018)、一方で、受容的な関わりは容易ではなく(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社, 2018)。職員から大切にされていない思いを体験する児童も少なくない現場の実情も報告されている(安部, 2006; 阪無・朝田・宮原・岡本, 2018)。一時保護所において、職員はどのように児童へと関わり、安心・安全を保障しているのかが問われる状況といえる。

一方、阪無・石村(2017a, 2019)は、職員の関わり方を整理し、職員は受容的な関わりに最も高い効果を感じることを明らかにしている(阪無・石村, 2016, 2017b)。しかし、いずれの調査も職員を対象にしており、児童が受容的な関わりに効果を感じているのかは明らかにされていない。

そこで、本研究では①受容的な関わりの構造を明らかにする尺度作成を行い、②受容的な関わりが児童の安心・安全に有効であることを明らかにする。

【方法】

調査協力者 2017年12月から2018年3月にかけて、調査に同意を得られた1施設の一時保護所入所児童のうち、小学3年生以上50名(男子27名, 女子23名, 平均年齢12.06±2.26歳)である。

質問紙構成 フェイスシート、阪無・石村(2017, 2018b)によって整理された職員の関わり7種類を各6項目、松村・鈴木・加藤・三浦・宇津(2014)の生活安全感・安心感尺度を設けた。

倫理的配慮 東京成徳大学大学院研究倫理委員会の審査と承認を得た。調査依頼の際は、児童相談所長及び一時保護課長に研究目的、方法等を説明し、調査協力の同意書に児童相談所のサインを得た。

【結果・考察】

職員の7つの関わりごとの主因子法・プロマックス回転による因子分析の結果、受容的な関わり、解決的な関わり、成長促進的な関わり、援助的な関わり、強制的な関わり、回避的な関わりの計7つの関わりが示された。 α 係数はいずれも.80以上であった。

次に、共分散構造分析により、職員の関わりから児童が安心・安全を感じられるモデルが示された(Figure1)。適合度は $X^2(df:20)=10.14$, $X^2/DF=.97$, $GFI=.96$, $AGFI=.91$, $CFI=.99$, $RMSEA=.00$ であり十分に許容される値が得られた(Figure1)。

主な結果として、受容的な関わりは強制的な関わりと回避的な関わりが児童の安心感・安全感へ負に影響するプロセス及び、成長促進的な関わりが強制的な関わりへ負に影響するプロセスを予防し、成長促進的な関わりを介して児童の安心感・安全感を高めるプロセスが確認された。

以上のことから、一時保護所における児童の安心・安全を保障するために、職員に対して、受容的な関わりを身につけるアプローチの実施が求められるといえる。

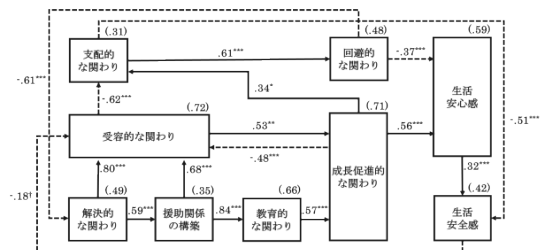


Figure1 職員の関わりから児童が安心・安全を感じられるプロセス

一般演題

- P-01. 眼球運動の速度と方向が連想語数に及ぼす影響**
— 情動価（肯定・否定・中立語）による違い —
福井義一（甲南大学）

- P-02. 保健師による被保護者の健康管理支援事業における子どもの健康支援**
久保木紀子（広島国際大学看護学部）
恒松美輪子（広島大学医系科学研究科）
山崎登志子（広島国際大学看護学部）
梯 正之（広島大学医系科学研究科）

- P-03. 被災を経験した看護系大学の学生が被災地支援を継続していくプロセス**
久保木紀子（広島国際大学看護学部）
眞砂照美（佛教大学社会福祉学部）
川崎裕美（広島大学医系科学研究科）
恒松美輪子（広島大学医系科学研究科）
山崎登志子（広島国際大学看護学部）
梯 正之（広島大学医系科学研究科）

- P-04. TPPV 装着 ALS 患者介護者の健康統制感と思考パターンの検討**
—MBTI 性格検査と日本語版 Health Locus of Control 尺度において—
清水裕子（香川大学自然生命科学系）
山本麻里奈（富山県立大学看護学部）
上原星奈（香川大学自然生命科学系）

- P-05. Spiritual Needs Questionnaire(SpNQ)日本語試案の検討**
上原星奈（香川大学自然生命科学系）
清水裕子（香川大学自然生命科学系）

- P-06. 発達障害の特性をもつ看護学生の就労にむけての困りごと**
— 学生生活や職活動に関するインタビューからの考察 第1報 —
千田美紀子（滋賀県立大学人間学部）
西垣里志（宝塚大学看護学部）
栗原はるか（第一薬科大学看護学部）

- P-07. 炎症性腸疾患患者が日常で知覚する困り事とその対処法に関する予備的検討**
— 中間報告 —
羽鳥健司（埼玉学園大学人間学部）

P-08. 眼球運動の代わりに両側性の光刺激を用いた一回限りの EMDR セッションの効果その2

ー首尾一貫感覚の改善ー

今井田貴裕（甲南大学・国際心理支援協会）

浅井伸彦（国際心理支援協会）

大浦真一（東海学院大学・国際心理支援協会）

福井義一（甲南大学）

P-09. キャリア教育プログラムの効果と学生の自己評価

ー授業前後の心理尺度得点と OPPA の記録からー

原瑞穂（香川大学キャリア支援センター）

P-10. 看護師におけるタッピングタッチのストレス緩和効果 その2

ー共感性や感情労働スキルを指標としたパイロット・スタディーー

今井田真実（中京学院大学看護学部）

今井田貴裕（甲南大学・国際心理支援協会）

福井義一（甲南大学）

P-11. 学校教員の職務多忙感・負担感がバーンアウトに及ぼす影響

ー年齢の調整効果の検討ー

磯和壮太郎（名古屋芸術大学）

今井田貴裕（甲南大学・国際心理支援協会）

一般演題抄録集

P-01

眼球運動の速度と方向が連想語数に及ぼす影響

—情動価（肯定・否定・中立語）による違い—

○福井義一（甲南大学）

キーワード：眼球運動，連想，情動価，EMDR

【目的】

有効性が確認されているトラウマ・ケアの一つに EMDR（Eye Movement Desensitization and Reprocessing：眼球運動による脱感作と再処理法）が挙げられる。EMDR は、左右両側性の高速の眼球運動（以後 EM）によってトラウマ記憶の再処理を促進し、適応的情報処理（Adaptive Information Processing：以後 AIP）を完了させる（Shapiro, 2001, 2006）ことで、トラウマ的出来事に起因する症候群の根治をもたらす。その治癒機制については、ワーキング・メモリー仮説、大脳半球交互作用モデル、検索反射モデルなどが提唱されているが、依然として未知のままである。上述した AIP モデルでは、両側性刺激により、新しい適応的な情報へと連想が生じることが仮定されているが、EM によって連想が強化されることを実証的に検討した研究は見当たらない。そこで、本研究では、EM の実施前後における連想語数の増減を検討した。

【方法】

協力者：協力が得られた大学生 70 名のうち、回答に不備があった者と、右手利きでない者のデータを除いた 53 名（女性 30 名，男性 23 名）分のデータを分析対象とした。

語句の選定：予備調査を実施し，肯定語（家族，娯楽），否定語（汚染，試験），中立語（線路，議論）のペアを選定した。

装置：壁から 65 cm の距離に協力者を座らせ，プロジェクターから壁に貼った模造紙に高さ 85 cm × 幅 146 cm の画面を投影した。

連想課題：単語を呈示し，そこから連想される単語を 3 分以内にできるだけ多く記述するように求めた。連想が生じなくなった時点で，手を挙げて合図するように求めた。

眼球運動：水平・垂直方向の EM の各条件において，高速（往復 1400ms）または低速（往復 5000ms）で画面上を移動する黒点を目で

追うように教示した。

手続き：同意書とフェイスシートへの記入の後，同一情動価のペアの一方の単語に対して連想課題を実施し，30 秒の EM の後，もう一方の単語に対して連想課題を再実施した。情動価の呈示順序は協力者ごとにカウンターバランスを取り，一人の協力者に肯定・否定・中立語のすべての条件を実施した。

【倫理的配慮】

個人情報とデータの取り扱い，実験参加の任意性と，途中中止時の不利益性について書面と口頭で説明し，書面で同意を得た。

【結果】

EM の速度と方向，呈示語の情動価が連想語数に及ぼす影響を検討するために，測定時期（前後）×速度（高速・低速）×方向（垂直・水平）×情動価（肯定・否定・中立）を独立変数，連想語数を従属変数とした 4 要因分散分析を行った。

その結果，測定時期と情動価の主効果が共に有意であり，実施後に連想語数が有意に増加したこと，肯定・否定語の方が中立語よりも有意に連想語数が多かったことが分かった。また，測定時期×情動価の交互作用が有意であったため，単純主効果の検定を行った結果，中立語においてのみ，前後で連想語数の有意な増加が見られた。その他の主効果や交互作用は有意ではなかった。

【考察】

AIP モデルから，高速の水平 EM による連想語数の増加が予想されたのに反して，速度や方向に関係なく，EM によって中立語に対する連想語数のみが増加することが分かった。本研究で用いた EM は，30 秒 1 セットのみであったため，AIP を促進するには EM のセット数が少なすぎた可能性がある。今後は，EM のセット数を増やした再検討が必要であろう。

P-02

保健師による被保護者の健康管理支援事業における子どもの健康支援

○久保木紀子(広島国際大学看護学部)

恒松美輪子(広島大学医系科学研究科) 山崎登志子(広島国際大学看護学部) 梯 正之(広島大学医系科学研究科)

キーワード： 保健師 被保護者健康管理支援事業 生活保護 子どもの貧困

【目的】わが国の18歳未満の子供の相対的貧困率は、2018年の国民生活基礎調査によると13.5%であり、7人に1人が貧困の状態である。相対的貧困率の国際比較(2017年)においても、OECD(経済協力開発機構)加盟国の平均12.8%を上回っており、先進諸国の中でも憂慮する状況となっている。

子供の頃の社会経済的環境が成人期以降の健康状態を決定するとされており、子供の貧困対策は喫緊の課題である。そのような状況の中、わが国では、「被保護者健康管理支援事業」が必須事業として、2021年1月より全国の福祉事務所で実施されている。被保護人員は、2018年度、2,068,958人となっており、そのうち18歳未満の子供は207,212人であり、子供への支援が必要不可欠である。

本研究では「被保護者健康管理支援事業」の子供への支援体制および支援内容の実際を、「被保護者健康管理支援事業」に従事している保健師を対象に調査を行い、子供への支援内容を明らかにすることを目的とする。

【方法】研究の同意が得られた、福祉事務所で被保護者健康管理支援事業に従事している保健師2名に電話インタビューを実施した。収集したデータから逐語録を作成し、分析は「コード」化の後、「コード」を類似性に基づいて分類・統合し、＜サブカテゴリー＞とし、「カテゴリー」の名称をつけ抽象化して分析をおこなった。

【倫理的配慮】広島大学疫学研究倫理審査委員会承認を受けた(E-1702)。

【結果】「被保護世帯の子供たちの現状」では、32のコードから11のサブカテゴリー、6つのカテゴリーが抽出された。「健康管理支援事業における子供への支援方法や課題」については、36のコードから11のサブカテゴリー、5つのカテゴリーが抽出された。「被

保護者健康管理支援事業の実施体制」に関しては、13のコードから5つのサブカテゴリー、3つのカテゴリーが抽出された。

子供たちの現状では、生活保護を受給するという《セーフティネットの重要性》があり、《日々の暮らしから起こる問題》の中で《生きる力の低下》がみられる状況であった。子供への支援方法や課題については《子供の親に寄り添う支援》を行い、《子供が自立して生活するための支援》の重要性があげられていたが、そのために必要である＜社会資源の利用が困難＞という課題があった。しかし＜あきらめずに関わり続ける＞姿勢で支援を継続していた。その中でも＜ケースワーカーの視点と保健師の視点を融合＞させて《ケースワーカーと連携して支援》することを大切にしていた。健康管理支援事業を実施するにあたり、福祉事務所の体制については＜福祉事務所に配属されている専門職間で話し合う＞＜保健部門の保健師との協働＞など《多職種が連携した支援》の大切さが認識されていた。また「健康管理支援事業が生活習慣病の重症化予防だけにフォーカス」されており、《被保護者健康管理支援事業の目指すところ》に子供への支援を考えていく必要性や、＜事業委託されることのジレンマ＞を感じており《顔の見える関係での取り組み》が重要であると考えられていた。

【考察】子供たちの現状から、生活保護を必要な時に受給し、自立して生きていくことができるように支援することの重要性があげられていた。そのためには、保護者へ寄り添う支援、社会資源の活用、保健部門と福祉部門の連携、生活習慣病予防の重症化予防の取り組みとともに、子供たちへの支援を積極的に取り組むこと、多職種で連携した顔の見える関係が必要であることが示唆された。

P-03

被災を経験した看護系大学の学生が被災地支援を継続していくプロセス

○久保木紀子(広島国際大学看護学部)

眞砂照美(佛教大学社会福祉学部) 川崎裕美(広島大学医系科学研究科) 恒松美輪子(広島大学医系科学研究科) 山崎登志子(広島国際大学看護学部) 梯 正之(広島大学医系科学研究科)

キーワード：災害ボランティア 看護学生 被災者 M-GTA

【目的】大規模災害後の被災地の復興支援において、災害ボランティアによる支援活動が果たす役割は大きい。東日本大震災後のボランティア参加者については、200 近くの大学が復興支援活動に関与していると見られることから(市川, 2015; 山本, 2013)かなりの数の大学生が災害ボランティア活動に参加していると考えられる。災害ボランティアとは、災害直後の活動だけでなく、その後の復興支援や平常時の防災・減災に関わる活動も含む幅広い活動を行うボランティアと考えられ(菅磨, 2008)、今後ますます災害ボランティアに対するニーズは高くなり、特に大学生に対する期待は大きいと推察される。

大学生の災害ボランティア参加は、復興支援や地域支援に貢献するだけでなく、学生の成長につながる教育的意義があることが報告されている。学生のボランティア活動を継続させ、ボランティア活動における学びを明確化し、さらに看護職としての学びが明らかに出来るような支援を検討するために、本研究では、平成 30 年 7 月豪雨災害で自らが被災した看護系大学の看護学生が災害発生後から、災害ボランティア活動に参加した動機と継続して活動をおこなうに至ったプロセスを明らかにすることを目的とした。

【方法】研究同意が得られた災害ボランティア活動に 2 回以上継続参加している看護学生 11 名にフォーカスグループインタビューによりデータを収集し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて分析した。

【倫理的配慮】広島大学疫学研究倫理審査委員会承認を受けた(E-1887)。

【結果】看護系大学の学生が被災地支援を継続していくためには、つぎのとおりフェーズが移行して活動が継続されていくことが示

された。災害は自分には無縁、他人事の 2 次元の感覚、テレビや新聞などで見る世界である《3 人称 2 次元感覚フェーズ》から、《被災という 1 人称体験フェーズ》のリアルな経験へ移行し、自分も被災し、助け・助けられる体験を経て《1 人称と 2 人称の交互体験》となっていた。その後、困っている人の存在に気づき、かかわろうとする体験、支援へのウォーミングアップ、スタートラインに立つまでの助走期間となる《身近な 2 人称へ思いを馳せるフェーズ》を経験していた。そこから《支援開始から活動全盛期フェーズ》となり、支援活動真ただ中、活動からリアルに学び、実践を学びにしていき、看護学生だからできることを精一杯やって地域への恩返しをしたいとの思いで活動を継続していた。活動卒業時は、《1.5 人称体験で支援の櫂を渡していくフェーズ》であり、活動を卒業した後輩へと支援をつないでいく、自分たちのところで途切れさせたくない、後輩に災害ボランティア活動の櫂を渡していきたいと強く思い、活動を繋げていた。

【考察】被災した学生には、1 人称と 2 人称の交互体験、1.5 人称体験が認められた。その体験を得るには、看護学生としての客観性と体験とが影響していると考えられた。さらに、災害ボランティア活動において自分たちの能力を提供し続けるために継続性も意図していた。これらは看護を提供する際に重要な感覚ととらえられ、被災体験のない学生にとって、この感覚を意識して繋いでいけるように支援を行っていくことが必要である。

P-04

TPPV 装着 ALS 患者介護者の健康統制感と思考パターンの検討

—MBTI 性格検査と日本語版 Health Locus of Control 尺度において—

○清水裕子(香川大学自然生命科学系)

山本麻里奈(富山県立大学看護学部)・上原星奈(香川大学自然生命科学系)

キーワード：人工呼吸器、筋萎縮性側索硬化症、MBTI 性格検査、健康統制感

【目的】日本では、人工呼吸器を装着し療養する筋萎縮性側索硬化症(Amyotrophic lateral sclerosis;ALS)患者が欧米に比べて多い。人工呼吸器を装着した ALS 患者を介護する家族介護者は、24 時間の介護を行うため、身体心理的な問題を有することが指摘されている。本研究は、気管切開下陽圧換気療法(Tracheostomized Positive Pressure Ventilation;TPPV)を受けている ALS 患者を介護する家族の思考パターンと主観的健康統制感の関連を検討することである。

【方法】対象者は、43~70 歳までの家族介護者 9 名、男性 2 名、女性 7 名、平均年齢は介護者 62.7±8.3 歳、患者 67.7±10.1 歳であった。データ収集方法は郵送留置法による質問紙調査であった。質問項目は対象者の基本属性 8 項目(属性の他、最終学歴、親兄弟の存在、就業、既往歴等)、患者の基本属性 12 項目(TPPV 装着期間、導入決定者等)、日本語版 Health Locus of Control 尺度(JHLC;堀毛, 1993)25 項目、MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)性格検査 93 項目であった。JHLC は、Rotter の Locus of Control 尺度(1996)や Wallston ら(1976)の尺度を検討して、堀毛(1993)が日本の実情にあった新たな日本語版を開発し、妥当性信頼性が担保された。MBTI 性格検査は、ユングのタイプ論を理論背景とする内省的な自記式質問紙である。結果は個人の心的機能(知覚 SN と判断 TF)と心的エネルギーの方向(外向 E、内向 I)、外界への接し方(判断的態度 J、知覚的態度 P)の相違により 16 の思考パターンのタイプに類型化する。分析方法は Spearman の順位相関係数を検討した。JHLC 得点は先行研究(山崎, 2005)の「外来患者」と比較検討した。その外来患者は男性 103 名女性 127 名平均年齢 46.0±19.5 歳であった。

【倫理的配慮】香川大学医学部倫理委員会の承認(平成 26-138)を受けた。MBTI 検査、分析は認定ユーザー清水が実施した。【結果】対象者の介護の場は、病院 5 名、在宅 4 名であり、患者の TPPV 装着期間は 3~27 年、TPPV 導入の判断は、全員一致が 2 名、家族が患者より先に決定したのが 5 名、医師の勧めが 1 名、その他が 1 名であった。対象者の JHLC と MBTI の結果に対して患者・対象者の基本属性の傾向はみられなかった。また、今回の介護者 JHLC の 5 つの因子得点は「外来患者」因子得点に完全に相関し、低かった。対象者のタイプは、「心的エネルギー」において E; 6 名, I; 3 名(対)、「外界への接し方」は J; 5 名, P; 4 名であった。この内 IJ の 3 名は JHLC の因子得点が 5 因子の殆どにおいて平均得点より低かった。また EP を有する 4 名は JHLC の第 2, 4 因子「周囲からの援助」得点が平均得点より概ね高かった。JHLC の 1~4 因子は E, N, P 指標と正, I, S, J 指標と負の有意な相関を示した。【考察】MBTI の心のエネルギーEI 指標と外界への接し方 JP 指標の組み合わせは、変化への対応スタイルに関係する。IP は「毅然とした内向タイプ」であり、特徴は「変化が自分のとらえ方と合致すると素早く行動するが、合致しないと不動の反対者となる」。一方 EP は「柔軟な外向タイプ」で「変化に対して自分の人脈を生かし、相談、対話し他者の意見を活かす。また周囲に働きかける」。EP より相対的に JHLC が低い IP は、健康に関する帰属傾向が低く、健康維持のための有効な手立てを発揮できない可能性がある。特に ISJ タイプは健康維持に懸念がある。しかし、EP は周囲との関係を活用し健康を維持することが期待できる。今後は、ALS 家族介護者の健康維持支援についてタイプを考慮する検討が必要である。

P-05

Spiritual Needs Questionnaire (SpNQ) 日本語試案の検討

○上原星奈(香川大学自然生命科学系)

清水裕子(香川大学自然生命科学系)

キーワード: スピリチュアルニーズ, スピリチュアルケア, Spiritual Needs Questionnaire

【目的】看護師は、残された時間の少ない患者とその家族に対して、スピリチュアルニーズを充たすケアが求められる。しかし、多くの看護師は、他の看護業務と異なるスピリチュアルケアに対して、戸惑いや無力感を抱く傾向にある。看護師が、患者のスピリチュアルニーズを正確に把握できれば、質の高いスピリチュアルケアを提供できると考える。Büssing, A. ら(2018)は、慢性疾患患者や高齢者、健常者のスピリチュアルニーズを測定可能な Spiritual Needs Questionnaire (SpNQ)を開発した。そこで本研究では、SpNQ 英語版を日本語に翻訳し、その信頼性と妥当性を検討することを目的とする。

【方法】本研究は、調査1のSpNQの日本語の質問項目作成と調査2の質問紙調査で構成された。調査1は、SpNQ 英語版を日本語へ翻訳し、原著者による逆翻訳の内容確認から、内容的妥当性を検討し、SpNQ 日本語質問項目を作成した。また、看護学生9名への調査を行い表面的妥当性を検討し、SpNQ 日本語試案を作成した。調査1の分析は、記述的に行った。調査2の対象者は、A大学看護学生260名であった。質問用紙は無記名自記式とした。質問用紙の構成は、基本属性6項目、SpNQ 日本語試案20項目4件法、スピリチュアル評価尺度(比嘉, 2002, Spiritual Rating Scale; SRS)15項目5件法、日本語版主観的幸福感尺度(島井, 2004, Subjective Happiness Scale; SHS)4項目7件法であった。調査2の分析は、IBM-SPSS statistics ver. 25を用いて記述統計を行い、信頼性は、折半法とCronbachの α 係数を検討した。併存的妥当性は、Pearsonの積率相関係数を算出しSpNQ 日本語試案とSRS, SHSの尺度間の相関関係を検討した。看護学生のスピリチュアルニーズ得点をSpNQ 英語版と比較するた

めに、2項検定を行った。

【倫理的配慮】本研究は香川大学医学部倫理委員会の承認のもとで実施された(承認番号平成 30-211)。本研究において開示すべき利益相反はない。

【結果】調査1から、SpNQ 日本語試案の表面的妥当性と内容的妥当性が確認された。調査2の有効回答者数は220名(男性6名、女性214名)であり、平均年齢は19.7(± 1.4)歳であった。信頼性係数は、折半法では0.94、Cronbachの α 係数は0.92であった。SpNQ 日本語試案合計得点は、SHS 合計得点及びSRS 合計得点において有意な相関を示し、SRS 第4因子「深心」との相対的に高い相関係数がみられた($p < 0.01$)。2項検定の結果は、31歳以下のSpNQ 英語版4因子の平均得点とSpNQ 日本語試案4因子の平均得点は、第1, 2, 4因子間で有意差があった($p < 0.001$)。

【考察】本研究の結果から、折半法の信頼性係数やCronbachの α 係数は十分に高い値を示し、信頼性が確認された。さらに、SpNQ 日本語試案のスピリチュアルニーズの概念は、「深心」(仏教用語)の自然や先祖とのつながりや超自然的な力の導きを深く求め信じる心において、併存的妥当性を認め、部分的に構成概念妥当性が確認されたといえる。SpNQ 英語版標準得点と看護学生に適用した日本語試案による得点の違いは、英語版の対象者は31歳以下の一般のドイツ人であり、本調査対象者は、22歳以下の看護学生であったため、年齢や性別、看護学生特性、文化的背景などが影響した可能性がある。以上から、SpNQ 日本語試案は活用可能であるものの、平均得点や標準偏差は暫定得点である。今後は、SpNQの日本語版標準化にむけ、31歳以下の一般の日本人を対象とした調査を行う必要がある。

P-06

発達障害の特性をもつ看護学生の就労にむけての困りごと

—学生生活や職活動に関するインタビューからの考察 第1報—

○千田美紀子(滋賀県立大学人間学部)

西垣里志(宝塚大学看護学部), 栗原はるか(第一薬科大学看護学部)

キーワード: 看護学生, 発達障害, 就職, 困りごと, 不安

【目的】

近年, 特別支援学校や特別支援学級に在籍している幼児児童生徒が増加する傾向にあり, 「発達障害者支援法」が改訂されるなど, 教育における合理的配慮も義務化されている。しかし, 現実には学校の中で困り感を抱える児童生徒が多く(中島, 2019), 離職率が高いなど学校生活や就労上の問題が多いことが明らかにされている(梅永, 2018)。

今回の研究では, 発達障害の特性をもつ看護学生 1 名に大学生活や就職活動についてインタビューし, 内容について事例分析を行うことにより, 就労支援の在り方に関する示唆を得ることを目的とする。

【方法】

対象者に対し, 半構造化面接を用いた事例分析を実施した。対象者は, 看護学部所属する A 氏である。A 氏は, こだわりが強い, 人と意思疎通することに対し苦手意識があるといった自閉症スペクトラムの特性をもっている。今回の研究では, 大学を卒業する直前の 4 年生 3 月に面接を行った。

面接では, 学生生活, 就職活動に関すること, 就職後への思いについて尋ねた。許可を得てインタビュー内容を録音し, 逐語録にしたのち, 困りごとに関する内容について抽出し分析した。

【倫理的配慮】

本研究は, 滋賀県立大学人を対象とした研究倫理審査委員会にて承認を得てから開始した(承認番号: 751)。対象者には, 研究目的と方法, 参加は自由意思であり参加の有無で不利益を受けないこと, 同意の途中撤回も可能であること, プライバシーの確保と個人情報を含むデータの管理に注意すること, 匿名性を確保し研究目的以外に使用しないことを文書に含め説明を行い, 同意書への署名に

より同意を得て実施した。

【結果】

インタビューの中では, 今までと違い看護の世界ではものごとの定義が明確でなく, 正しいことがわからず困っているということが語られた。その中でも教師との認識のずれがあること, 感情的に怒られることがわからない, 言葉の意味が辞書と違うことに納得がいかないなど, 自分の中での当たり前が通用しないことを困りごととして認識していた。そのような経験を「空気が読めない自分」と表現しながら語り, その時々に応じた対応を身につけ, その対応を行い褒められるといった成功体験も経験していた。様々な経験から, ありのままの自分と看護の世界がずれており, 自分には向いていないと思いながらも, それが今後の課題だと自覚し, 限られた条件の中で希望を叶えられる就職先を探し, 就職活動を行っていた。就職後には職場内に困りごとを相談できる人がいればよいが, そこに不安があることも語っていた。

【考察】

A 氏は自身の特性としてこだわりが強いと自覚しており, 物理的に物事を捉えることにこだわっていた。こだわりがある一方, 対応に失敗したと捉えながらも, その対応策を自身で見つけられており, それを強みとして認識することが自信にもつながると考える。また, 就職後には臨機応変に対応しなくてはならない場面が増えることが予測され, 本人の不安軽減のためにも, 困りごとへの対処法のマニュアル作りや自分で苦手なことをアピールできる発信力を育てる必要性が示唆された。

利益相反開示: 発表に関連し, 開示すべき利益相反関係にある企業などはない。

P-07

炎症性腸疾患が日常で知覚する困り事とその対処法に関する 予備的検討

-中間報告-

○羽鳥健司（埼玉学園大学人間学部）

キーワード：炎症性腸疾患、対処、心理学

【目的】

炎症性腸疾患（以下 IBD）は、消化管に原因不明の潰瘍が出現し、再燃と寛解を繰り返す難病である。主な病態は血便、下痢、腹痛、高熱である。現在根治を目指した医学的研究が進められているが、患者の QOL を考えると生活者の視点を重視した生物心理医学モデルに基づくより包括的な支援が求められる。本研究では、日常生活を送る寛解期の炎症性腸疾患が知覚する困り事とその対処法を探索的、質的に検討し、分類することである。

【方法】

研究参加者 日本国内の IBD 患者会に所属する IBD 者に調査票への回答を依頼し、回答に不備のなかった 30 名を分析対象とした。男性 22 名、女性 8 名、クローン病（以下 CD）患者 12 名、潰瘍性大腸炎（以下 UC）患者 18 名、年齢は 19 歳から 67 歳、平均年齢は 41.57 歳、標準偏差は 13.22 であった。診断から経過した期間は 1 年から 42 年、平均期間は 18.00 年、標準偏差は 11.86 であった。
基本属性 性別、年齢、職業の有無、病気の種類、発症時期の回答を求めた。

困り事 “この病気になって、困ったことや、つらかったことを、できるだけたくさん教えてください。”と教示し、自由記述での回答を求めた。

対処法 困り事で挙げたことに対して“困りごとや、つらかったことに対して、どのように対処しましたか？”と教示し、自由記述での回答を求めた。

【倫理的配慮】

本研究は所属機関の研究倫理審査委員会の承認を受けており、十分な倫理的配慮の下で実施された。

【結果】

自由記述の回答について心理学、看護学、医

学を専門とする研究者で協議を行って KJ 法（川喜田, 1967）に沿って分類し、集約された各小カテゴリーのうち、回答数を分析対象者数で割った値が 8% 以上であったカテゴリーのみを回答者ごとに各回答の有無で 2 値に変換した。次に、フェイスシートの“性別”、“職業の有無”、“病気の種類”を 2 値に変換し（女性、就業・学無しおよび CD を 1、男性、就業・学有りおよび UC を 0）、自由記述で得られた情報とフェイスシートで得られた情報を同時に数量化Ⅲ類に投入した。その結果、日常生活における IBD 者の困り事とその対処法は 5 群に分類されると解釈できる結果を得た（Figure1）。

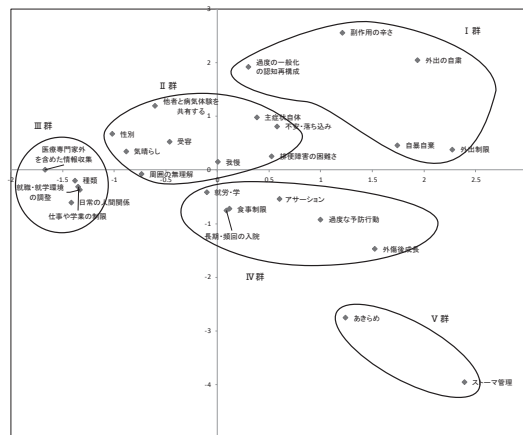


Figure1 困り事と対処法に対する数量化Ⅲ類の結果

【考察】

本研究は、IBD 者が日常で感じている困り事とその対処法を探索的に検討することを目的とした数少ない心理学的研究である点において一定の意義がある。しかし、必ずしも全ての困り事を網羅できているわけではないこと、及びどの対処法が有効であるのかについては本研究からは言及できない。今後はより大規模な調査の実施が求められる。

P-08

眼球運動の代わりに両側性の光刺激を用いた一回限りの EMDR セッションの効果 その2

-首尾一貫感覚の改善-

○今井田貴裕（甲南大学・国際心理支援協会），浅井伸彦（国際心理支援協会），

大浦真一（東海学院大学・国際心理支援協会），福井義一（甲南大学）

キーワード：EMDR，両側性光刺激，首尾一貫感覚，トラウマ

【目的】

眼球運動による脱感作と再処理法（Eye Movement Desensitization and Reprocessing：EMDR）は，両側性刺激を用いてトラウマ記憶の再処理を促進する心理療法である（Shapiro, 1995）。EMDR で用いられる両側性刺激は，視覚刺激である眼球運動（Eye Movement：EM）の他に，聴覚・触覚刺激でも代替可能である（e.g. Wilson, 1996）が，光刺激（Light Stimulation：LS）にも EM と同等の効果が示唆されている（Asai et al., 2018, 2021）。ところで，EMDR の効果指標の一つとして，首尾一貫感覚（Sense of Coherence：SOC）が用いられており，複数回のセッションによって改善すること（Szpringer et al., 2018）が報告されている。また，SOC は，ストレス対処力（Antonovsky, 1987）と目されており，PTSD を発症した人々では弱いことが分かっている（Schäfer et al., 2019）。両側性の視覚刺激として EM と LS が等価であるなら，LS による EMDR セッションでも SOC を強化できると思われる。

そこで，本研究では両側性 LS を用いた一回限りの EMDR セッションによる SOC の変化を検討した。

【方法】

実験協力者：一般成人 10 名の協力を得た。本研究は，Asai et al. (2021) で未使用であった尺度を使用した。

尺度構成：SOC を日本語版 SOC-29（山崎, 2009）によって 7 件法（1～7 点）で測定し，把握可能感，処理可能感，有意味感の 3 つの下位尺度得点を得た。質問票には，本研究で未使用の尺度も含まれていた。

手続き：EMDR トレーニングを修了した 2 名のセラピストが，両側性 LS を照射する眼鏡（Asai et al., 2018）を用いた LS による一回限りの EMDR セッションを行い，セッ

ション前と 1 週間後に質問票調査を実施した。

【倫理的配慮】

本研究は，第二著者の所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施された（承認番号 20190501-1）。

【結果】

SOC について，下位概念の種別と測定時期を独立変数とした繰り返しのある二要因分散分析を行った。SOC の下位概念の種別の主効果（ $F(2, 18) = 51.60, p < .001, \eta_p^2 = .85$ ）と交互作用（ $F(2, 18) = 5.83, p < .05, \eta_p^2 = .40$ ）が有意であった。SOC の下位概念ごとに測定時期の単純主効果の検定を行った結果，把握可能感（ $F(1, 27) = 4.85, p < .05, \eta_p^2 = .35$ ）と処理可能感（ $F(1, 27) = 6.23, p < .05, \eta_p^2 = .41$ ）はいずれもセッション前後で有意に増加するのに対して，有意味感は変化しないことが分かった。Figure 1 にセッション前後の SOC の各下位尺度得点の平均値の変化を図示した。

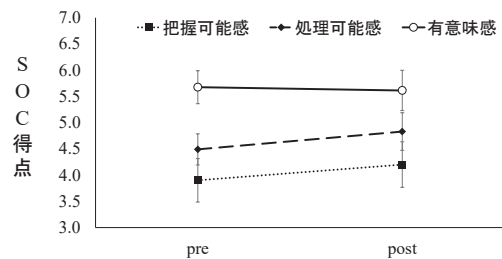


Figure 1 SOCの下位尺度得点の変化

【考察】

両側性 EM による先行研究（Schäfer et al., 2019）と同様に，両側性 LS でも SOC が強化されたことが分かった。両側性 LS が EM と同等の効果を有する証左の一つとなると思われる。有意味感が不変であったのは，1 回限りのセッションであったことや，健常者を対象としたため天井効果が生じていたことが理由として挙げられる。今後は，継続セッションによる変化の確認や有意味感が低い臨床群を対象とした検討が必要であろう。

P-09

キャリア教育プログラムの効果と学生の自己評価

—授業前後の心理尺度得点と OPPA の記録から—

○原瑞穂(香川大学キャリア支援センター)

キーワード: キャリア教育、効果、自己評価

新キャリア教育プログラムの内容が構築時の目的に合った内容であるのかを検証した。キャリアデザインⅠは自己理解、キャリアデザインⅡは仕事理解を深めることを目的とした内容であり、両方ともアクティブラーニングを用いている(以降授業Ⅰ、Ⅱとする)。授業Ⅰは社会人講話が2回設定され、授業Ⅱでは後半5回PBL導入による課題解決型グループワークを取り入れた。

【目的】本研究では、新キャリア教育プログラムが学生のキャリア意識の向上と、学生生活への積極的関与に貢献できているのか検証することを目的とする。

【方法】2020年度後期に授業Ⅰと授業Ⅱを受講した学生を対象として、授業前後にWeb調査を実施した(以降、授業Ⅰ、Ⅱとする)。内容は、山本・松井・山成(1982)の自尊感情尺度、坂野・東條(1986)の自己効力感尺度を使用した。また、授業で「一番大切だと思ったこと」を毎授業後に記述す一枚ポートフォリオ評価法(OPPA: One Page Portfolio Assessment)を実施した。

【倫理的配慮】本研究は、山梨大学の倫理委員会の承認を得て実施された。Webによる質問紙調査とOPPAは、実施時に本調査の目的と目的以外の使用がないこと、自由意志に委ねることを明記あるいは説明し、回答と提出をもって同意が得られたと判断した。

【結果】授業ⅠとⅡの受講者65名の内、回答に不備のある者を除く64名(男性37名、女性27名、平均年齢18.9歳)を対象とした。授業Ⅰが50名、授業Ⅱが14名であった。自尊感情と自己効力感尺度の信頼係数は、自尊感情が $\alpha=.79$ 、自己効力感が $\alpha=.80$ であった。相関係数は.69であり高い値であった。性別の相関係数は男性.73、女性.55が得られたため、全体での分析を行った。

(1) 各項目得点の授業前後の比較

各項目得点の授業後の変化を、各項目得点

の平均値の比較により調べたところ、授業Ⅰでは、自尊感情と自己効力感ともに小から中程度の効果が見られたが、授業Ⅱでは、自己効力感では中程度の効果であったが、自尊感情に中から大程度のマイナスの効果が見られた(表1)。

(2) OPPA の記述の比較

次に、OPPAの記述の内、授業後と授業前・中・後の振り返りの記述をテキストマイニング^{注1)}を用いて分析した。その結果、授業Ⅰでは「自己、価値観、長所短所、見つめる」など自己の内省を深める内容が多かったのに対して、授業Ⅱでは「能力、メンバー、引き出す、伝える、出会える、本気、魅力、アイデア、主体性、配慮」などグループ活動への葛藤やメンバーに対する思いや行動が現れた表現が多く見られた。授業Ⅱには、これ以外にも「発表、視野、難しい、他人、積極性、楽しい、苦手、意識、周り、おかげ、自信」などが比較的良好に出ており、葛藤を抱えながらメンバーと積極的に関わろうとする態度がうかがえた。

表1 授業前後の尺度の平均値比較

		対応サンプルの差		結果	効果
		M	SD		
全体	自尊感情	-.56	4.00	$t(49)=-.991, n.s.$	.14 小
	自己効力感	-.94	3.01	$t(49)=-2.211, p<.05$	.30 中
キャリアデザインⅠ	自尊感情	-1.40	2.70	$t(39)=-3.284, p<.01$	.47 中-大
	自己効力感	-.95	3.05	$t(39)=-1.972, n.s.$	.30 中
キャリアデザインⅡ	自尊感情	2.80	6.30	$t(9)=1.405, n.s.$	.42 中-大
	自己効力感	-.90	3.00	$t(9)=-.949, n.s.$	.30 中

※0.1効果量小、0.3中、0.5大

※M=平均値、SD=標準偏差

【考察】

授業Ⅰ、授業Ⅱの内容は、それぞれが目指す目的に概ね合致しているものであると確認できた。授業Ⅱの自尊感情の低下は検討の余地があるが、学生が課題に真剣に取り組む際に経験する成長の一過程と考えられなくもない。結果については、長期にわたる継続的な分析が必要である。また、対象者数の偏りを少なくした再調査が必要である。

^{注1)} ユーザーローカル テキストマイニングツールを使用。

P-10

看護師におけるタッピングタッチのストレス緩和効果 その2

—共感性や感情労働スキルを指標としたパイロット・スタディー—

○今井田真実(中京学院大学看護学部)

今井田貴裕(甲南大学・国際心理支援協会), 福井義一(甲南大学)

キーワード: 看護師, タッピングタッチ, 共感性, 感情労働スキル

【目的】

看護師の職務は負担が大きい上に, 感情労働が要求されており, 共感疲労やバーンアウトが生じやすい(土井, 2014)ため, 簡便で即効性のあるストレス・ケアの導入が必須であると思われる。タッピングタッチ(以後TT; 中川, 2004)は, 指先の腹を使って左右交互にタッチする相互ケアの技法であり, 多忙な看護師にも比較的容易に導入できると思われる。実際に看護師において, TTによるストレス反応の緩和効果が確認されている(今井田真実他, 2020)。TTには, 心身に対する好影響だけではなく, 対人関係上の効果もあることから, 共感疲労の改善や感情労働スキルの回復といった対人援助職に特有の効果が期待される。そこで本研究では, 看護師において, TTの共感性や感情労働スキルの改善効果を試験的に検討した。

【方法】

実験協力者: 平均年齢 36.17 歳 ($SD = 13.15$) の病棟看護師 6 名の協力を得た。本研究では, 今井田真実他(2020)で, 未分析の尺度を使用した。

尺度構成: 共感性を対人反応性指標(Davis, 1983)日本語版(桜井, 1988)で測定し, 空想と個人的苦悩, 視点取得と共感的配慮の4つの, 感情労働スキルを看護師の感情労働測定尺度(片山他, 2005)で測定し, 探索的理解と表層適応, 表出抑制, ケアの表現, 深層適応の5つの下位尺度得点をそれぞれ得た。手続き: TT協会主催のトレーニングを受けた第一著者がTTを指導し, その前後で質問票調査を実施した。質問票には, 本研究で未分析の尺度も含まれていた。

【倫理的配慮】

第一著者の前所属先の倫理委員会の承認

を得て実施された(承認番号第137号)。

【結果】

共感性と感情労働のそれぞれについて, 下位概念の種別と測定時期を独立変数とした2要因分散分析を行った。共感性について, 交互作用($F(3, 15) = 3.23, p < .10, \eta_p^2 = .392$)のみが有意傾向であった。単純主効果の検定の結果, TT後に空想の低下が有意($F(1, 20) = 5.24, p < .05, \eta_p^2 = .51$), 視点取得の促進が有意傾向($F(1, 20) = 3.85, p < .10, \eta_p^2 = .43$)であった(Figure 1)。感情労働スキルについて, 主効果も交互作用も有意ではなかった。

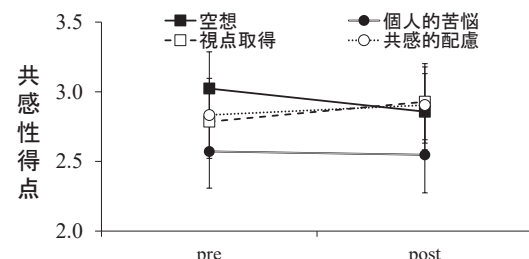


Figure 1 共感性の下位尺度得点の変化

【考察】

看護師において, 一回限りのTTによって, 不適応的な自己指向的共感の認知的側面である空想が抑制されるのに対して, 適応的な他者指向的共感の同じく認知的側面である視点取得が促進することが分かった。その一方で, 看護師において, 一回限りのTTによって共感の情動的側面と感情労働スキルは回復しないことが分かった。

以上から, 看護師におけるTTには, 一回限りでも, 感情労働によって疲労した共感性の適応的な側面が回復する可能性があることが示唆された。今後, サンプルサイズを大きくして, TTの反復実施による共感の情動的側面や感情労働スキルの回復効果を検討する必要がある。

P-11

学校教員の職務多忙感・負担感がバーンアウトに及ぼす影響

-年齢の調整効果の検討-

○磯和壮太郎(名古屋芸術大学)

今井田貴裕(甲南大学・国際心理支援協会)

キーワード：学校教員，多忙感，負担感，バーンアウト

【目的】

学校教員のバーンアウト (Burn out : BO) が問題視されて久しく、先行研究でも若手教員ほど BO しやすい点が報告されている(貝川・鈴木, 2006)。他にも、職務に対する多忙感と負担感が BO を増悪させる(例、高木, 2003; 神林, 2015)。しかし、職務に対する多忙感と負担感は、職務の量的側面と質的側面をそれぞれ指していると思われるため、併列した上での検討が必要である。そこで本研究では、教員の職務に対する多忙感と負担感尺度を試作し、それらの BO に及ぼす影響における年齢の調整効果を検討した。

【方法】

調査対象者 Web 調査サービスに登録している小・中学校や高等学校、特別支援学校に勤務している平均年齢 42.00 歳 ($SD = 11.33$) の教員 124 名を対象とした。なお、データは磯和・今井田 (2021) と一部重複があるが、異なる観点からの分析の同意を得ている。

調査内容 多忙感と負担感は、独自に作成した学校職務の各領域に対する多忙感と負担感を尋ねる尺度(それぞれ対応付けた 6 項目 7 件法)によって各尺度得点を得た。BO は、久保 (1998) の日本版 BO 尺度 (17 項目 5 件法) を使用し、情緒的消耗・個人的達成感の低下・脱人格化の各下位尺度得点を得た。

【倫理的配慮】

調査開始時の画面に個人情報、データの取り扱い、研究の趣旨、調査協力の中断・放棄の自由を明記し、この内容に同意した者のみ

に回答を求めた。

【結果】

信頼性分析の結果、多忙感と負担感が高い内的一貫性 ($\alpha = .90, .92$) が確認された。

次に、BO の各下位尺度得点を従属変数、Step1 に性別を統制変数、Step2 に年齢、Step3 に多忙感と負担感、Step4 に年齢と多忙感、年齢と負担感の交互作用項、Step5 に二次の交互作用項を独立変数として投入した階層的重回帰分析を実施した。その結果、年齢は情緒的消耗 ($\beta = -.20$) と個人達成感の低下 ($\beta = -.22$) を直接的に抑制していた。多忙感は個人的達成感の低下を抑制 ($\beta = -.51$) するのにに対して、負担感 BO を促進 ($\beta = .41 \sim .64$) していた。情緒的消耗と脱人格化に対して、一次の交互作用項はいずれも有意であったため、単純傾斜の検定の結果を Figure 1 に示した。なお、BO に対して、二次の交互作用はいずれも有意でなかった。

【考察】

情緒的消耗感は、多忙感が高いベテラン教員や負担感が高い若手教員ほど増悪していた。脱人格化は、多忙感が低いか、負担感が多い若手教員ほど増悪していた。本研究から、若手教員は負担感の高さだけでなく、多忙感の低さも BO を招く要因になる可能性が示された。しかし、本研究で試作された尺度は内的一貫性を確認したのみである。また、職務内容の多忙感と負担感を直接尋ねた形であるが、それぞれの構成概念自体の区別が難しいため、これらの再定義も必要であろう。

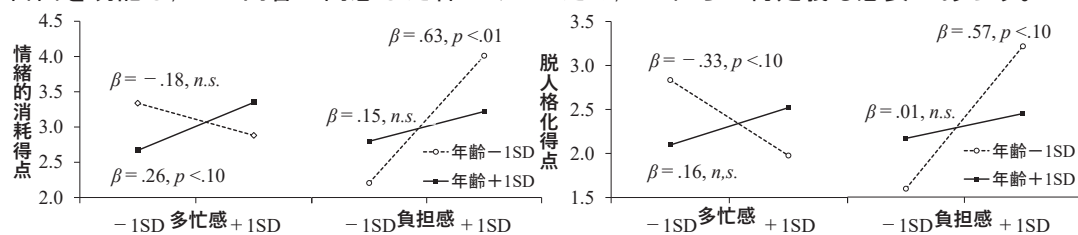


Figure 1 有意な交互作用項に対する単純傾斜の検定

研修会

「対話の力：生きること、死ぬことをめぐる ヒューマン・ケア」

講師 田村 恵子 氏

〔現職〕京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 緩和ケア看護学分野
教授 がん看護専門看護師

〔プロフィール〕

1996年聖路加看護大学大学院看護学研究科修了。1997年にがん看護専門看護師認定を取得。わが国における末期がんに対するホスピスケアの草分けである大阪市・淀川キリスト教病院で1987年より27年間務め、多くの方の看取りに向き合う。2006年大阪大学大学院医学系研究科修了（医学博士）。2014年1月より現職。2015年7月より、地域で生活するがん患者や家族が支え合う力を育む「ともいき京都」を開始。

〔講演概要〕

ここ数年、哲学カフェやサイエンスカフェ、子どもの哲学、対話による人生相談など「対話 Dialogue」をキーワードとする活動が増えている。さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延と先の見通しが見えない現状において、これまで以上に対話が注目されている。では、対話とは何か、どんな時に行われるのだろうか。河野は、「対話は、何かの真理を得ようとして互いに意見や思考を検討しあうことであり、きちんと検討しなければ得られない真理を得たいときに、人は対話する。」*と述べている。つまり、対話とは、真理を共に探求するためお互いに応答しあうことであり、他者に対して責任ある誠実な姿勢を示していくことであり、対話はケアリング/ケアであると言えるだろう。

本研修会では、まずホスピスでの経験を踏まえて終末期あるがん患者との生死をめぐるケアについて、共感を手掛かりに紹介する。次に、コミュニティにおけるがんサバイバーシップを育むとして、演者らが取り組んでいる「ともいき京都」における子どもの哲学を基盤とした対話について紹介する。これらのケアの実際の紹介を通して、生きること、死ぬことをめぐるヒューマン・ケアについて共に探求する機会としたい。

* 引用文献 河野哲也. 人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学. p 2. 岩波書店. 2019.

ゲストスピーカー 玉置妙憂 氏

〔現職〕 非営利一般社団法人 代表理事

看護師・僧侶・スピリチュアルケア師・ケアマネジャー・看護教員

〔プロフィール〕

東京都中野区生まれ。専修大学法学部卒業。夫の“自然死”という死にざまがあまりに美しかったことから開眼し出家。高野山真言宗にて修行を積み僧侶となる。現在は非営利一般社団法人「大慈学苑」を設立し、終末期からひきこもり、不登校、子育て、希死念慮、自死ご遺族まで幅広く対象としたスピリチュアルケア活動を実施している。また、子世代が親の介護と看取りについて学ぶ「養老指南塾」や、看護師、ケアマネジャー、介護士、僧侶をはじめスピリチュアルケアに興味のある人が学ぶ「訪問スピリチュアルケア専門講座」「訪問スピリチュアルケア専門オンライン講座」等を開催。さらに、講演会やシンポジウムなどで幅広くスピリチュアルケア啓発活動に努めている。

著書『まずは、あなたのコップを満たしましょう』（飛鳥新社）『困ったら、やめる。迷ったら、離れる。』（大和出版）『死にゆく人の心に寄りそう 医療と宗教の間のケア』（光文社新書）、他多数。ラジオニッポン放送「テレフォン人生相談」パーソナリティ。

〔講演の概要〕

「スピリチュアルケア」とはなにかを説明しようとした時、難しさを感じたことはありませんか。なぜ、「スピリチュアルケア」を人に理解してもらうことが難しいのか。そもそも「スピリチュアル」とはなんなのか。そして、その「スピリチュアル」を「ケア」するとは？ それらのことについて、私見を述べます。

日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会一覧

回	期 間	開催場所	代表者	代表者の所属
1	1999年10月30日	聖路加看護大学	木村 登紀子	聖路加看護大学 看護学部
2	2000年10月21～22日	岐阜大学	小山田 隆明	岐阜大学 教育学部
3	2001年6月2～3日	東京都立保健科学大学	長田 久雄	東京都立保健科学大学 保健科学部
4	2002年6月1～2日	福島県立医科大学	志賀 令明	福島県立医科大学 看護学部
5	2003年9月22～23日	筑波大学 東京キャンパス	岡堂 哲雄	聖徳大学 人文学部 (学会本部主催)
6	2004年8月26～27日	東北学院大学 土樋キャンパス	堀毛 裕子	東北学院大学 教養学部
7	2005年8月26～27日	桜美林大学 町田キャンパス	石川 利江	桜美林大学 文学部
8	2006年9月6～7日	神戸女学院大学	島井 哲志	神戸女学院大学 人間科学部
9	2007年9月8～9日	名古屋市立大学	後藤 宗理	名古屋市立大学 人文社会学部
10	2008年9月13～14日	京都大学	菅 佐和子	京都大学 医学部
11	2009年7月19～20日	東北大学	岩崎 祥一 安保 英男	東北大学 情報科学研究科 同 教育学研究科
12	2010年7月18～19日	日本赤十字看護大学	木村 登紀子 遠藤 公久	淑徳大学 総合福祉学部 日赤看護大学 看護学部
13	2011年7月23～24日	大阪市立大学	石井 京子 山田 富美雄	大阪市立大学 医学部 大阪人間科学大学 人間科学部
14	2012年7月15～16日	筑波大学 東京キャンパス	小玉 正博 伊藤 まゆみ	筑波大学 人間総合科学研究科 共立女子短期大学
15	2013年7月6～7日	聖路加看護大学	堀内 成子	聖路加看護大学 看護学部
16	2014年9月13～14日	サンポート高松	清水 裕子	香川大学 医学部
17	2015年9月26～27日	日本赤十字看護大学 広尾キャンパス	遠藤 公久	日本赤十字看護大学 看護学部
18	2016年9月24～25日	埼玉県立大学	鈴木 玲子	埼玉県立大学 保健医療福祉学部
19	2017年9月30～10月1日	山梨大学	中込 さと子	山梨大学大学院総合研究部
20	2018年6月23～24日	京都橘大学	菅 佐和子	京都橘大学 健康科学部
21	2019年6月15～16日	桜美林大学大学院	長田 久雄	桜美林大学
22	2020年7月4～5日	(延期)		
22	2021年7月3～17日	オンライン	山崎 登志子	広島国際大学 看護学部

大会組織

【第22回大会・大会長】

山崎 登志子（広島国際大学看護学部）

【第22回大会準備・実行委員】

委員長	中村	百合子	（広島国際大学看護学部）
委員	大沼	いづみ	（広島国際大学看護学部）
	野間	雅衣	（広島国際大学看護学部）
	松本	睦子	（広島国際大学看護学部）
	俵	由美子	（広島国際大学看護学部）
	岡本	裕子	（広島国際大学看護学部）

協賛企業一覧

本学術集会には、以下の企業様より、多大なご支援を受け賜りました。
深く感謝申し上げます。

【ご寄付】

新熊本産業(株)
(株) クリーン・エナジー
東洋羽毛中四国販売(株)
有限会社エヌ・エムツール
(敬称は省略させていただきます)



株式会社 クリーンエナジー

[本社工場] 〒734-0054 広島市南区月見町2244番地の13
TEL082-890-0177 FAX082-890-0178 <http://www.cleanenergy.co.jp/>

(株) クリーンエナジーは「チャレンジ25キャンペーン」に
参加し地球温暖化防止に努めることを宣言します。



東洋羽毛は 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会 を応援しています。



待望のひんやりシリーズ



涼眠活

洗濯機
OK

MADE
IN
JAPAN
日本製

ひんやり

敷きパッド & 枕パッド

ひんやり

暑い夏にプラス1枚！ひんやり心地良い敷きパッドです

表面
接触冷感
Q-max
Q.360

中わた
涼感わた
吸湿感着効果で
冷涼感

底面
立体ハニカム構造
通気性◎

シングル (税込価格)
¥20,000

セミダブル (税込価格)
¥21,000

ダブル (税込価格)
¥22,000

枕パッド (税込価格)
¥5,000

使う使わないで、この夏が変わります

ひんやり

リバーシブルケット

ひんやり面×やわらか面 気候によって使い分けられるケットです

くしゅくしゅ
接触冷感
高分子繊維採用

リバーシブル

やわらか
肌触りソフト
優しい肌触り

備前(ようりゅう)生地により、
肌との接触面を減らし涼しく感じる工夫

シングル (税込価格)
¥18,000

東洋羽毛

水と、空気と、睡眠と。

睡眠セミナー無料サービスのご案内

よく眠った人には、かなわない。

※— 今よりもぐっすり、幸せな毎日のためのヒントがきっと得られるはずです —※

睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします。

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。
正しい情報を得て睡眠習慣を見直し、イキイキと健康的な毎日を歩むお手伝いをさせていただければ幸いです。



東洋羽毛イメージキャラクター 桃井かおりさん

《お役に立てる主な研修》

- ★医療安全対策研修 睡眠不足とヒューマンエラーの関係や、交代制勤務における睡眠のコツなど
- ★メンタルヘルス研修 労働者におけるストレスと睡眠の関係
- ★学校保健委員会 「学力」や「部活動」、「スマホ・ゲーム」と睡眠の関係
- ★高齢者の睡眠ケア 高齢者の睡眠マネジメントやこれだけは知ってほしい生活習慣

※他、施設内研修などご相談承ります（事前にお打ち合わせにお伺いする事も可能です）。



東洋羽毛中四国販売株式会社

〒731-0113 広島県広島市安佐南区西原1-12-12 ☎0120-828-226



日本ヒューマン・ケア心理学会 第22回学術集会
大会プログラム・抄録集

発行：2021年7月

発行者：日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会準備員会

〒737-0112 広島県呉市広古新開 5-1-1

広島国際大学 呉キャンパス内

大会専用 E-mail 2021humancare@gmail.com